

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970700241		
法人名	社団医療法人 英静会		
事業所名	グループホーム 憩のもり		
所在地	栃木県日光市根室607番地7		
自己評価作成日	平成22年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が「ここに来て良かった」と思っていたりするような環境づくりに力を入れています。具体的には、積極的に家事や炊作りなどに参加していただき、役割と喜びを感じられるよう支援したり閉鎖的にならないよう、散歩やスーパーへの買い物、大型店や公園、公共施設などに出かけたりといった、地域の中で生活している感覚を大切にしています。また、家族とは絆が繋がっていることを実感できるように、面会を働きかけたり、家族を招いての行事をたくさん企画しています。同法人の病院や、老健があることから、重度化した場合のフォローが出来ることも大きな利点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは日光市東部の幹線沿いと森に囲まれた静かな環境に立地し、隣接には当法人の介護老人保健施設がある。ホームでは・楽しく喜びのある家・一人ひとりが尊重され、穏やかに過せる家・互いに助け合い、認め合う家・地域に積極的に行ける環境・等4つの基本理念を職員で作成され、実践に向けて取り組んでいる。また地域の一人として馴染みの付き合いに努めている。運営推進会議には市担当者・地域包括支援センター職員・民生委員・地域代表者・入居者家族代表の出席があり状況報告や積極的な意見交換が提供され、連携が図られている。管理者・職員の異動があったが、管理者は積極的に職員の意見を受け入れホーム本来のあり方について話し合い、職員も明るく・楽しくをモットー活きいきとした支援に努めており、入居者も職員の見守りにより外出や買物・散歩に出かけることが多く、楽しく生活している様子が伺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度新たに、事業所基本理念を作成し地域の中のグループホームを意識して、理念の実践に向けて努力している。	「グループホーム憩いのもり」基本理念を職員で今年の2月に作成しており、地域のホームとして4つの理念を掲げ実践に向けてサービス支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生活の買い物(食料品、日用品)は、地域のスーパーを利用し、入居者も一緒に買い物したり、日常的に近くの公園や、公共施設に散歩したり、外食の機会ももうけている。	自治会に加入しており、今年度からゴミも出せるようになる。日常生活用品・食料品等も地域で購入するなど、また地域の神社の甘酒祭りに数名が参加したり、コミュニティセンターや公園へ出かけたりして地域の一員として馴染みの付き合いに努めている	自治会の収集場にゴミも出せるようになり、少しずつ地域に認識されてきており、次回の神社の祭りには全員参加の試みと交流を深め、地域との協力体制の取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、どんど焼きや甘酒祭りなどに参加して、認知症を理解していただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の反省を踏まえて、今年度は、2ヶ月に1度の推進会議開催に努め、報告や意見を頂いてサービスの向上に活かしている。特にご家族からの意見は大切にしている。	運営推進会議は入居者家族代表・民生委員・市役所職員・地域包括支援センター職員の参加により2ヶ月に1度開催され、サービス状況報告や意見交換等の話し合いを行っている。そこでの意見は大切に受け止め職員間で共有し、サービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは固定された方にせず、議題や時季を考慮され自治会長・消防・警察の参加により、会議がさらに充実される取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや行政の担当の方とは、必要におおじて連絡や指導を仰いでいる。	地域包括支援センターや市役所担当職員が運営推進会議にも参加しており、運営状況等も把握している為、ホームからの提出書類や意見等丁寧な指導と、また情報交換や様々な相談に乗ってもらっており良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に関しては手動にて開閉しており、玄関を通過した際は、チャイムが鳴るようにしているので、徘徊時は常に注意している。	法人全体で身体拘束をしないケアについて取り組み実践している。玄関は常時手動開閉が出来るようになっており、チャイムの音により安全の見守りをしている。夜の徘徊についても振り安全な見守りを職員は共有し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修は、行政による出前研修に参加したり、外部研修に積極的に参加できるように、勤務を配慮している。法人としても虐待のない介護の実践を徹底して教育している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては理解しているが、現状では対象となる入居者がいないので、勉強会はしていない。今後、必要に応じて検討し学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、利用者、家族と時間を十分に使い説明し理解していただいて契約している。また、重度化による、入院や他施設への移行時には丁寧に説明して理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日常的にケアに反映できるよう配慮している。家族の意見は、面会時に伺ったり、運営推進会議において訊ねているが、意見はあまりないのが現状。	利用者の要望は日常の支援のなかで把握しており、家族の意見は運営推進会議での意見やホームへの訪問時に話しかけ、意見の出しやすいように職員も心掛けて運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内での人事異動があり、管理者、職員が数名代わっている。そのため、管理者は職員の意見や提案は積極的に受け入れている。逆に、今までとは違う方針も職員に投げかけて、より良い方向を目指している。	2月に管理者・職員の異動があり、管理者は積極的に職員の意見を受け入れ、職員からも様々な意見が出され、ホーム本来のあり方についても議論され、職員は明るく・楽しくをモットーに生きいきとした支援に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月末の運営会議において、代表者に、実績や状況の報告を行なっている。成果は評価されているが、職場環境や条件に即、はねかえってくるには至らず。しかし、各自がやりがいと喜びを感じて働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもちろん、外部の研修には積極的に参加できるように、勤務表を配慮している。また、個人的に休日を利用して、スキルアップ研修を受講している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修において参加者同士、名刺やアドレス交換をして、情報交換を行なっている。しかし、相互訪問や勉強会を開くには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人との面接時に、状況をよく聞き取り、不安を解消し、安心して利用できる環境作りを、職員全体で取り組んでいる。また、なるべく個々の要望に応えられるような努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人との面接時に、状況をよく聞き取り、不安を解消し、安心して利用できる環境作り職員全体で取り組んでいる。家族との連絡を密にとるよう心がけ、さらに、写真を盛り込んだ新聞を毎月、家族に発行。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いと家族の思いが、相反する場合が多いけれど、互いにとって最善の状況を作ることができるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、食事をはじめ家事全般、園芸活動などを利用者と共に行っている。また、地域社会へも積極的に出て行くように心がけているが、対等の立場を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居すると安心からか、家族の面会も減り、心も遠のきがちになる。家族との絆を保つためにも、密に連絡をとり面会や外出、外泊を働きかたり、電話での対応を依頼し、心の安定をはかれるよう協力を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や馴染みの人の面会を積極的に受け入れると同時に、可能な範囲で、生活圏であった大型店やスーパー、公園などに出かけるようにしている。	親戚や馴染みの人の訪問も多く積極的に受け入れたり、利用者の生活圏であった大型スーパーなどに週3回買物に出かけたり、公園にも出かけたり利用者の馴染みが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特性、特技を把握し、良い人間関係が築けるよう働きかけている。また、元気な人が弱い人を助けるという関係が、自然とできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化して病院に入院したり、他施設に入所した場合、見舞ったり、訪ねて話したりしている。また、利用が終了した家族にも、推進会議の委員として出席していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の様々な場面で、本人の自己決定を常に尊重している。	日頃の会話や生活の様子と、また家族の意見から、本人の自己主張を尊重し、出来る事を見極めながら本人の思いに添えるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の面接、利用後の家族と本人の関わりの中で、生活歴などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の1日の過ごし方、心身の状況を踏まえ、自立支援を目的としたケアを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施しているが必要に応じて、その都度検討会を開催している。利用者の心身の状況を把握し、介護計画に反映できるようにしている。	本人・家族の意見や要望を基に、月1回の合同カンファレンスやミーティング等と朝の申し送りに検討会を実施したりして3ヶ月に1回モニタリングを実施している他、状況の変化に応じ随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に介護が遂行できるようになってきた。介護記録をもとに申し送りを行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズにできる限り応えたいと思っているが、なかなか応えきれない面がある。インフォーマルなサービスの開拓が必要と思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、包括支援センター、民生委員、ボランティアなど、運営推進会議において情報を交換しながら、必要な支援を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から2週に1度の往診をしていたが、定時薬に関しては処方してもらっているが、その他体調不良時は、家族又は職員が付き添い、希望の病院に受診している。	協力病院となっている法人のかかりつけ医に週に1度定期的(水曜日)に往診を依頼し、定時薬の処方を受けている。その他医療機関に受診される場合でも家族の都合がつかない時等は職員の付き添いにより適切な受診が出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員に看護師が配属されているので日々の医療的変化には敏感に対応できている。さらに、予防的ケアにも力を入れている。また、介護職のレベルアップのために、重要な役割を担ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院があるので、希望があればそこに入院でき、連携をとっているし、入院中は面会にも行く。ただ、入院中も部屋を確保しているので、経済的負担の面を考慮して、退院の見通しを医師より話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合は話し、最大限の努力はするが、不可能になった場合の、入院や他施設入居になる可能性も含めて、支援している。	入居時に家族も高齢になってきていることを含め重度化した時点を話し合っている。ホームとしても不安の軽減に努めており、他施設への用意も出来るように日頃から職員も共有し支援している。看取りの指針は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での合同研修において、救急処置や感染防止策などの訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は行なっているが、災害を想定した訓練は実施していない。ただ、推進会議において指摘された緊急避難所は確認した。	消防署立会いの下、年2回総合訓練が行われており、9月末にスプリンクラーが設置された。運営推進会議において緊急避難場所の確認については大沢中・大沢小の確認が出来ている。	定期的に訓練が実施され、スプリンクラーも設置されたが、幹線道路丘陵地に立地しており災害と夜間想定訓練の試みと、運営推進会議や遠方ではあるが地域住民の協力体制の構築に向けた取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し尊んだ接遇を心がけているが、場合によっては、家族のような親しみをこめた呼びかけをすることもあ	入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでおり、家族の了解のもと、家にいる時の呼び名や、その人に合った呼び名等、職員は接遇に心がけ、個々に応じた呼び方で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いを大切にし、自己決定できる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度や認知症のレベルが様々な方々なので一様な対応はできない。しかし、勤務の状況で、完全な個別対応も出来ないので、可能な限り、本人の意思に添えるケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの美容師を呼んで、個々の希望に沿った髪型にしている。日常の身だしなみは、個々の思いや趣向を大切にして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食」は一番の楽しみなので、大切にしている。季節感や栄養バランスを考慮して献立をたてている。また、調理や片付けは入居者と一緒に行い、生活感を大切にしている。	入居者は季節の食材をホーム敷地内の畑から楽しみながら採ってきたり、食事の準備や片付け、根菜の皮むき・食器拭き等入居者の出来る範囲で、職員と一緒にしている。食事は会話をしながら摂っており、職員も支援と見守りながら一緒に食していた。外食は外出の時実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量には常に注意をはらっている。栄養のバランスも、献立を同法人内の管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスをもらい、次に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎晩預かり、消毒している。歯磨き出来る方は、毎晩実施している。その他の方は毎食後うがい等を行い、口腔ケアには注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄、快適な排泄を目指して、個々の排泄パターンを把握し、個々に応じた、支援を行なっている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、行動や様子等を伺い、自然な声かけにより誘導支援をしている。また職員は自立した・快適な排泄を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のアドバイスを受けながら、献立の工夫をしたり、運動を心がけているが、便秘薬による排泄の方もいる。どちらにしても、排便状況の把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、本人の希望に沿うよう努力しているが、外出や行事などを優先して、午前中から入浴していることもある。	入浴は毎日出来るようになっており、夕方毎日入浴する人もいる。週3回対応しているが、入居者の希望に応じ楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調、疲労度に応じて休息をとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診に来ていただいている医師との連携はできている。常勤看護師が主となり薬の管理や症状の変化の確認につとめ、きめ細かな対応ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が、楽しいと感じられるよう、役割を持っていただいているし、散歩やレク、ドライブなど、気分転換の出来ることを、積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や、出勤状況に応じて、なるべく外に出るよう配慮している。また、畑作りや、食料品の買い物など、入居者と共に行なう事をモットーとしている。家族にも、外出外泊を積極的に働きかけている。	天候の状況により、出来る限り外出の対応に努めている。また入居者は職員と一緒にホーム敷地内の夏場の畑では早朝草取りや収穫をしたり、食料品の買物に出かけたりしており、家族にも外出や外泊の協力をお願いしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は自己管理できる方に関しては、トラブルにならない程度の額を渡して、買い物などに同行している。その他の方は、訪問販売などで好きなものを選んで購入していただき支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、精神安定の面からしても大切なことなので、家族の負担にならない程度で協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は清潔で快適に過ごせるよう、整備している。	共用空間は不快感もなく開設10年とは思えないほど、清潔感が漂っており清掃が行き届いている。壁面には様々な行事の様子や外出の写真が飾られ、また玄関には散歩の載ってきた季節の花が置かれており、リビングの片隅には畳の場所もあり快適に居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは十分あるので、気の合う人と話していたり、一人でテレビを見たり、日光浴をしたり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの物や使い慣れた物を持参していただくよう声かけはしているが、殺風景な居室はある。	居室は洋室と和室があり、入居者が自宅で使い慣れた物が置かれ、居室では馴染みの楽器を弾く人もおり音色で居室に集まってくる入居者もいる。衣替え等は家族の協力も得ながら、職員も一緒に季節に合った衣類が選べるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、安全に生活できるようにになっている。トイレは分かりやすいように、表示している。個々の居室は、目印等で工夫し分かりやすくしている。		